

地域協働 CBL news

VOL.12

[CONTENTS]

■ピックアップ!	1
■2022年度前期活動報告	3
■地域志向取組み	4
■成果発表会出展一覧	5
■学生団体活動紹介	5
■コラム	6
	7
	8
面	面
	面
	面

PICK UP!
前期成果発表会開催!

令和4年7月22日(金)、28日(木)の2日間にわたり、前期成果発表会を開催しました。各ゼミ・団体が前期に取り組んできた活動を、スライドを用いた口頭発表にて紹介しました。また当日参加できなかった人でも各活動を知ることができるように、発表スライドを抜粋したポスターを8月10日(水)まで掲示し、より多くの人の目に触れるようにしました。参加者からは「他のゼミの活動を知ることができて良かった」「県大の地域との連携の強さを知れた」「活動の認知度を上げて他の県大生も参加できるようにしたら良いと思う」などの意見が寄せられました。後期の発表会は1月中旬に開催予定です。



PICK UP!
DX教育研究センター設立

令和4年4月にDX教育研究センターを設立し、「県内企業のDX化推進」と「DX人材の育成」の2点を目的に活動しています。「県内企業のDX化推進」では、先端設備を導入課題を解決する用意をしております。



また企業間や教員および学生との接点を創出するワークショップスペースも設けております。「DX人材の育成」では、社会人向けのセミナーやイベントを定期的に関催しております。



詳しくはこちらから



COCOS とは

COCOSとは、2014年4月に県立大が設置した学生団体です。COCOSの名前の由来は、COC (Center Of Community:「地(知)の拠点」※)とOS (Operating System:基盤)で、大学が進める地域協働の学生の主体として活動しています。地域の課題解決、魅力の発見、PRを行うため、地域の方々と対話や交流を重ねながら一緒に活動し、一緒に地域を盛り上げようとしています。

学内では、成果発表会の運営や地域協働の授業や取組みを支援するCOCTA (Teaching Assistant)も担っています。



※ 2013年から本学が採択された文部科学省による「地(知)の拠点整備事業=COC事業」より

2022年度前期活動報告

まちづくりの活用について 学生目線でリサーチ・提案する

濱トピックゼミ

濱トピックゼミでは、富山市西町商店街振興組合様と協働し、街の魅力を発見・整理し、まちなかの活用についてリサーチ・提案を行いました。

まず、4月下旬に西町商店街や富山市中心市街地を訪問・見学し、気になるところを撮影、共有しました。5月には西町商店街の方からお話を伺い、コロナ禍後のお店の様子や、西町商店街の歴史についてお話いただくとともに、ディスカッションを行いました。その後、全国商店街支援センター情報誌「E.G.A.O」過去5年分を調査し、まちなかの活用に関する興味深い取り組みを抽出した上で、さらに幅広く先行事例のリサーチを行いました。

そして、7月下旬の前期報告会にて富山市中心市街地向けにカスタマイズした企画を提案し、西町の方と議論を行いました。



高齢者を対象とした

eスポーツゲームの有用性評価

鳥山トピックゼミ

鳥山トピックゼミでは、高齢者の運動不足が懸念されているなかで、eスポーツゲームが運動促進にどの程度有効かについて検討しました。

現在普及し

ているeスポーツゲームを活用して楽しんでもらうことで、運動不足も解決できるのではないかと考え、「怒ふきの達人」というゲームを体験してもらいました。その結果、「とても楽しく気分がよくなった」「けっこうな運動でした」「機会があればまた体験したい」など多くの方々から高い評価の感想をいただき、アンケートの統計検定でも、eスポーツはやってみると楽しいと感じる方が有意に多いことを確認できました。

これらのことから、高齢者の運動にスポーツは有用であることを明らかにできたと考えています。



富山の水道管の未来を考える

寺島研究室

寺島研究室では、水道管が破損し漏水が相次いでいることから、富山県の水道管の漏水・破損早期発見システムの構築を目的として活動しました。現状のシステムは、水道管の弁に漏水検知用のセンサを設置し、センサで計測した振動の値から漏水の有無を判断します。しかし、このシステムには課題が存在し、天候によるセンサの取得不足、センサ対応範囲の狭さによるセンサの数の増加など、様々な課題があります。そこで今後の展開として、過去に蓄積された知見・情報を利用し漏水しやすい箇所をまとめた「水道管漏水ハザードマップ」の作成



の作成、振動+αもしくは振動以外の情報を利用したシステムの提案です。そして、富山県企業局や漏水検知システムメーカーの皆様へ提案する予定です。

スマ食

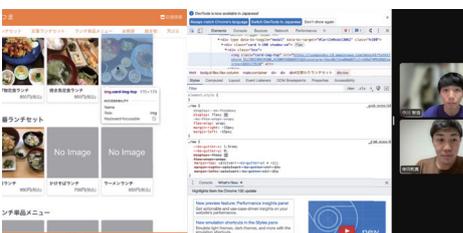
富山県立大学生の外食をスマートに

Core Creative Manager (CCM)

CCMは、IT技術やSNS運用を通じて富山県を盛り上げることを目的として、「スマ食」というアプリケーションを作成しました。このアプリは、オンラインメニューブックや、QRコードを用いてメニューの選択や注文の決済ができるモバイルオーダー、そして注文や売上をダッシュボード上で管理できる点を有しており、非常に便利です。

また、「スマ食」を利用している店を紹介するために、「ミルクール」というInstagramのアカウントを運営しています。ユーザーの多いInstagramで紹介することで、スマ食と飲食店のユーザー数を増やす働きがあります。

今年度では、以上の活動を通じて、現在は13店舗であるスマ食の利用店舗数を100店舗とすることを目標としています。



SDGsでつながる富山 地域の取組みをみんなの取組みに

中村プレゼンテーション演習

中村プレゼンテーション演習では、環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）と富山市社会福祉協議会の協力を得て、社会福祉協議会の活動がSDGsのどのゴールとターゲットに貢献するかを考えました。

その活動の例として「フードドライブ」を挙げられます。「フードドライブ」という活動は家庭で余った食品を集めて食品を必要としている団体に寄付するというものであり、食品廃棄と貧困家庭の食事問題を同時に解決する可能性を秘めています。そのような地域に寄り添った活動について今後も学習を続けていきます。



ドローンを活用した小中学校向けの 体験型プログラミング教材の開発

岩井プレゼンテーション演習

岩井ゼミは、堀岡小学校で小学6年生を対象に、ドローンを使用したプログラミング体験教室を開催しました。まず、コントローラを用いて、周回コースに設置されたリングの中を通るようにドローンを飛行させました。そして、プログラミングアプリ（Tealium EDU）を用いて、自動飛行のプログラミングを作製し、同じコースを自動飛行させました。岩井教授の指導のもと、富山県立大学の学生と小学生が協力し、楽しくプログラミング体験を行いました。実施後アンケートでは、「将来、プログラミングを使った仕事に携わりたいか」という質問に対し、12名中11名が「してみたい」と回答しました。

今後は、今回の結果をまとめ、教育委員会に報告し、体験教室の実施校を増やしていく予定です。



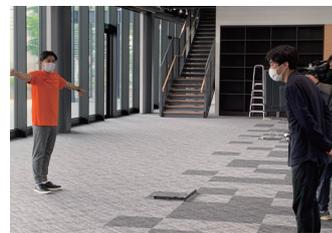
POLYGON (DX学生団体) 活動報告 POLYGON x KNB

POLYGON

DX学生団体POLYGONは、DXを推進することに関心がある学生が主体的にプロジェクトに参加し、企業や地域と共同して社会問題の解決を目指す組織です。

富山のイベントとして親しまれる「いっちゃん！リレーマラソン」で、KNB（北日本放送）さんと連携し、2つの提案を実現しました。まず、ランナーにより具体的なアドバイスができるようモーションキャプチャを利用した走行フォームの撮影の様子を大学で生放送させていただきました。また、リレーマラソンのゲストランナーである安田美沙子さんに360度カメラで撮影しながら伴走し、YouTubeのチャンネルで配信させていただきました。

他にも、射水市自動車運転プロジェクトや射水市シェア社会プロジェクトの計画、学生自主プロジェクトへの参加を行っています。



令和 4 年度 地域志向教育・研究・学生自主プロジェクト採択一覧

本学では、学生が地域と主体的に関わり、地域課題解決や学生自身の成長が遂げられる活動を推進すべく教員、学生による取り組みへの支援を行っています。教育・研究・学生自主プロジェクトの 3 枠で学内公募し、コロナ禍で減少していた応募も増加に転じ、採択結果は下記の通りとなりました。

・地域志向教育プログラム

テーマ・概要	代表教員
クリスマスマーケット in TOYAMA	教養教育 准教授 金城 朱美
地域小学生のための英語教室 (2022 年度) ーグローバル人材育成につながる英語教育支援ー	教養教育 准教授 山崎 大介
クラウドコンピューター Amazon AWS を活用したシュミレーション技術の開発と地域企業支援	機械システム 教授 中川 慎二
視覚障がい者を対象とした科学体験教室の実地を評価	知能ロボット 准教授 本吉 達郎
ドローンを活用した小中学校向けの体験型プログラミング教材の開発	知能ロボット 教授 岩井 学
「ロボットが社会でどう活用されていくか」をテーマとした小学生向け ロボットプログラミング教室	知能ロボット 准教授 増田 寛之
IoT 機器による地域のイベント活用について	情報システム 准教授 中田 崇行
菜 (すくも) 発行条件の検討を通じた村おこし事業への参加体験	生 物 准教授 日比 慎

・地域志向研究

研究課題	代表教員
立山の高山帯における一極集中型観光による環境負荷を低減するための 立山周辺域における新たな観光モデルの開発	教養教育 准教授 鈴木 浩司
県内の送水管・漏水検知システムのあるべき姿の探求 ー富山に最適な IoT 活用システムの提案を目指した DX 教育研究ー	機械システム 准教授 寺島 修
廃校ハッカソン～主に呉西地域の遊休施設の発掘および DX 教育への活用	情報システム 准教授 中田 崇行
小矢部市中山間部における廃校校舎を利用した大気環境観測 ー近年の大気環境の特徴と地域への情報ー	環境・社会基盤 教授 渡辺 幸一

・学生自主プロジェクト

テーマ	学生団体・代表者
AR を用いた富山県立大学の魅力向上	POLYGON 電子・情報工学専攻 1 年 石川 雄大
スマ食	CCM (Core Creative Manager) 電子・情報工学専攻 2 年 寺田 和真
星空トロッコでのコロナ感染防止対策のための 電視観望システム構築	天文部 知能ロボット工学科 3 年 中川 莉那
万葉線沿線の魅力発見および、沿線地域の賑わいづくり	地域協働研究会 COCOS 看護学科 3 年 西本 真彩

令和4年度前期 地域協働授業成果発表会

令和4年7月22日（金）4団体、28日（木）5団体が口頭発表形式で成果発表を行いました。
 本学学生、教員、地域の関係者など2日間で約160名の参加がありました。



1日目 7月22日(金) 14:50~16:20		
タイトル	発表者	所属
富山の未来の未来を考える	発表者	情報システム工学科 吉原 真規
富山県立大学地域協働授業について —まちなかの活用について—	トピックゼミ I	教養教育センター 学生 貴子
学生目線で「eスポーツ」の活用について	トピックゼミ I	情報システム工学科 鳥山 朋二
eスポーツ実用性評価を —地域協働授業を通して—	トピックゼミ I	情報システム工学科 鳥山 朋二
2022年度COCOS	地域協働研究会 COCOS	
2日目 7月28日(木) 13:10~14:40		
タイトル	発表者	所属
SDGsでつながる富山； 地域の取組みをみんなの取組みに	プレゼンテーション演習	環境・社会基盤工学科 中村 秀規
ドローンを活用した小中学校向けの 体験型プログラミング教材の開発	プレゼンテーション演習	知能ロボット工学科 岩井 学
～富山県立大学の未来をスマートに～	Core Creative Manager (CCM)	
POLYGON(DX学生団体)の活動報告	POLYGON(DX学生団体)	
2022年度COCOS	地域協働研究会 COCOS	

ポスター展示 7月22日(金)～8月10日(木)

【第1日目】 7月22日（金）

- ① 「富山市中心市街地の活性化について」
 —まちなかの活用について学生目線でリサーチ・提案する—
 トピックゼミ I (教養教育 演 貴子 准教授)
- ② 「富山の水道管の未来を考える」
 寺島研究室 (機械システム工学科 寺島 修 准教授)
- ③ 「高齢者を対象とした e スポーツゲームの有用性評価」
 トピックゼミ I (情報システム工学科 鳥山朋二 教授)
- ④ 「2022年度のCOCOS」
 地域協働研究会COCOS

【第2日目】 7月28日（木）

- ① 「スマ食～富山県立大学大学生の的外食をスマートに～」
 Core Creative Manager (CCM)
- ② 「SDGs につながる富山；地域の取組みをみんなの取組みに」
 プレゼンテーション演習 (環境・社会基盤工学科 中村 秀規 准教授)
- ③ 「POLYGON(DX 学生団体) の活動報告～ POLYGON × KNB ～」
 POLYGON
- ④ 「ドローンを活用した小中学校向けの体験型プログラミング教材の開発」
 プレゼンテーション演習 (知能ロボット工学科 岩井 学 教授)
- ⑤ 「2022年度のCOCOS」
 地域協働研究会COCOS

地域で学ぶフィールドワークの様子 ①



【射水市金山】



【富山県立中央植物園】



【小杉駅】



COCOS 活動紹介①

万葉線海王丸駅と海王丸パークのイルミネーション

COCOSでは、活動の一環として万葉線イルミネーション実行委員会と協働し万葉線「光の道」プロジェクトを行いました。万葉線「光の道」プロジェクトとは、万葉線開業20周年、海王丸パーク開園30周年という大きな節目に、万葉線沿線をイルミネーションによるライトアップを行い、さらに多くの方に万葉線を周知し、利用を促すために立ち上がったプロジェクトです。COCOSの活動目的としては、公共交通の魅力を再発見し、万葉線沿線の活性化につなげることです。

活動内容として、1つ目に海王丸駅の装飾を行いました。夏をイメージした花火や富山県の特産品のカニ、ホタルイカなど私たちが考案したデザインをもとに自分たちで実際に作り、装飾しました。2つ目に、海王丸パーク内の作品展示コーナーの設置・装飾を行いました。海王丸パークには射水市のブランドキャラクターであるムズムズくんのイルミネーションを展示しました。両方、8月5日(金)から8月21日(日)まで展示されていました。イルミネーションにより少しでも多くの方に海王丸駅や海王丸パークを訪れていただけたのではないかと思います。



COCOS 活動紹介②

Café Ciel ～カフェしえる～

カフェしえるは県立大から徒歩5分、静かな住宅街にたたずむカフェです。このカフェは、何らかの障がいをお持ちの方が働く場としてスタッフの方が一緒に経営しています。COCOSはカフェしえるをさらに盛り上げることを目的として活動しました。カフェしえるを宣伝するチラシの制作では、実際にカフェに伺い、スタッフさんと対話をして、カフェ側の要望と学生側の意見を交えて作成しました。他にも、昼休みに学生に向けてお弁当販売を行うなど、商品の販売をお手伝いしました。さらに、8月6日に行われたダ・ヴィンチ祭では、ひまわり畑の前でフルーツジュレの販売を行いました。カフェの集客アップに繋がるように、ジュレを購入していただいた方限定で、カフェで使えるクーポン券を制作し、配布しました。暑い中多くの方に購入いただき、無事に完売することができました。

今後は、大学内でのチラシの配布や掲示、商品の販売を予定しています。カフェしえるのさらなる盛り上げに繋がるよう、活動していきたいと思えます。



COCOS活動紹介③ LINKtopos

8月31日(水)～9月2日(金)の3日間、京都府福知山市でLINKtopos2022が開催されました。LINKtoposとは、地域活動を行っている公立大学の学生が全国各地から集まり、ワークショップ等を通じて意見交換し、交流を図るイベントです。今年「Restart」をテーマに3年ぶりの対面開催となりました。

1日目は基調講演と市内の町歩きが行われ、2日目と3日目は4つのグループに分かれてワークショップと全体発表が行われました。参加したCOCOSメンバーは、「感染症対策を考える災害時における避難所運営シミュレーション」と「未来に役立つ本当の自己分析」について各グループでディスカッションを通じて学びを深めました。熱量のある学生同士で多種多様な意見を交わすことで、知見を広めることができました。



COCOTA研修
TAとしてのスキル向上を図るため、研修を実施しました。

講師：山口翔太さん
(トークグラフィッカー)
2022年10月3日(月)

学生団体紹介 天文部

天文部では、星の知識やカメラ撮影技術を活かして、さまざまな地域協働取組を行っています。今回はその一部を紹介いたします。

ーダ・ヴィンチ祭ー

県立大で毎年開催されているダ・ヴィンチ祭では、プラネタリウム工作教室を行っています。この企画では、簡易的なプラネタリウムキットを工作し、家でもプラネタリウムを見ることが出来ます。さらに、このキットを用いたプラネタリウムの上映も行っています。とても人気の企画で、200組以上の地域の方に参加して頂いたこともあります。

ー星空トロッコー

天文部が最も力を入れている地域協働取組として、星空トロッコがあります。星空トロッコとは、黒部峡谷鉄道(株)のイベントで、普段運行しない夜にトロッコで樺平まで行き、星空を見ることが出来るイベントです。この中で私たちは、車内でのアナウンスや樺平での星の解説を担当しています。このイベントでは参加されたお客様に星空クリアファイルなどをお配りしているのですが、そのクリアファイルには天文部員が撮影した写真が使われています。星空トロッコは、毎年早い段階で予約が埋まるほど、非常に人気の高いイベントですが、その一部を富山県立大学天文部が担っていると自負しています。

ーその他ー

他にも、富山県環境保全課が主催する環水公園スターウォッチングでは、天文部が手作りした望遠鏡を持ち込んで、月などの天体をお客様に見て頂いたりもしています。今後の活動では、太閤山ランドとも協働計画があり、打ち合わせを重ねています。

このように、星やカメラの知識を活かして地域協働取組を行っています。興味ある方はぜひ天文部へ!!





「協働した方々の声」

地域

射水市地域福祉課 山田貴哉

介護予防とeスポーツ

今回、鳥山研究室が開発したゲーム「窓ふきの達人」を地域の高齢者の方たちと一緒に体験させていただきました。

今回の体験会では、参加者の皆さんの本当に楽しんでおられる様子が伝わってきたことが何よりも喜ばしく感じました。高齢者の方々にとって、普段立ち入ることのない大学に出かけること、若い学生の方々との交流すること、テレビゲームを体験すること、これらの行為がすべて新鮮であり、皆さんの心に残る体験会となったのではないかと感じております。こうした、社会とのつながりや生活に潤いと生きがいを与える体験が、精神・心理面での介護予防にとっても大切な要素です。ゲーム自体は、身体面での介護予防を目的として作られたものであると思いますが、体験会形式にすることで、こうした心の面もカバーすることができ、今回の体験会は、体と心の両面での介護予防効果が期待できる有意義なものであったと感じております。

これまで、本市の集いの場において、eスポーツを実施している例はなく、本市の高齢者のeスポーツへの認知度は低いと言えます。今回の体験会によって、体験された地域の皆さんはもちろん、新聞に掲載された記事をご覧になられた他の地域の方々にもeスポーツという存在を、まずは、知っていただけたのではないかと思っています。

今後、eスポーツが介護予防の一翼を担う新たな存在となることを期待しています。

地域で学ぶフィールドワークの様子 ②



【イタイイタイ病資料館】



【立山・美女平】



【万葉線】

CBLnews
バックナンバー

これまでに
発行したニュースは
こちらから



なんとSDGsボードゲーム

南砺市と富山県立大学の学生がSDGsを楽しく学べるボードゲームを制作！

SDGsに遊びながら学ぶボードゲーム「なんとSDGsボードゲーム」を南砺市と富山県立大学心理学部SDGs研究センターが制作しました。ゲームには、南砺市の取り組みや南砺市の人材、子どもたちが楽しみながらSDGsを学ぶことができるように工夫しました。ゲームは、南砺市が「学びながら学ぶ」人材育成という目標を達成し、SDGsに関連したプロジェクトを実施してサイトを通じて広く普及させたいという目的で制作しました。

SDGsを学ぶきっかけに！

SDGsの達成のために私たち一人一人が目標を達成することでできる楽しみがあります。ゲームを通して、楽しみながら学ぶことができます。ゲームを通して、SDGsの達成に向けて、SDGsを学ぶきっかけになります。

◆ご注文方法 (送料は別途お見積りください)

オンラインショップでご注文の場合
※送料は別途お見積り
※送料は別途お見積り
※送料は別途お見積り

ポッドキャストも販売中
※送料は別途お見積り
※送料は別途お見積り
※送料は別途お見積り

¥2,800円(税込)

お問い合わせ先
TEL: 0766-56-7500 (内線1255) FAX: 0766-56-8022

2023年12月現在
100%より学術的発行

SDGs ボードゲーム販売中

南砺市と協働して制作した「なんとSDGsボードゲーム」を継続して販売中(1個2,800円)です。

SDGsについて楽しく
学べる教材としてぜひ
ご活用ください。



公立大学法人富山県立大学 地域協働支援室
http://tpu-cbl.net
〒939-0398 富山県射水市黒河 5180
射水キャンパス(中央棟1階 N-103)
TEL:0766-56-7500(内線1255) FAX:0766-56-8022
E-mail:kyodo@pu-toyama.ac.jp
記事制作:地域協働研究会 COCOS

発行:令和4年10月

